

宜 基 渉 第 47 号  
令和元年8月13日

沖縄防衛局長  
田中 利則 殿

宜野湾市長 松川 正則

普天間飛行場への度重なるジェット戦闘機の飛来について（抗議・要請）

まちのど真ん中にある普天間飛行場は、市街地と隣接していることから、航空機事故の危険性や、騒音等による基地被害が市民の大きな負担となっております。

特にジェット戦闘機をはじめとする外来機の飛来に伴う騒音については、市民生活に甚大な影響を与えることから、本市はこれまで、あらゆる機会を通じて普天間飛行場への外来機の飛来禁止を強く要請しております。

再三の抗議・要請を行っているにも関わらず、8月11日にはF35B、12日にはFA18Dの飛来により、100デシベルを超える大きな騒音が確認されております。

さらに、本来穏やかに迎えるべき旧盆の初日であり、沖縄国際大学への米軍ヘリ墜落事故から15年目にあたる本日13日には、ジェット戦闘機が頻繁に離着陸を繰り返す状況が続いており、とても看過することはできず、本市へも苦情が多数寄せられております。

市民の負担は既に限界を超えており、市としても市民が実感できる危険性除去及び基地負担軽減を強く求めている中で、このような更なる騒音被害は断じて容認できるものではなく、極めて遺憾であると言わざるを得ません。

つきましては、外来機であるジェット戦闘機の普天間飛行場への度重なる飛来に厳重に抗議するとともに、貴職から米軍に対し、市民生活に十分配慮するよう申し入れていただくようお願い申し上げます。

問題の抜本的解決に向け、普天間飛行場の一日も早い閉鎖・返還と速やかな運用停止をはじめとする返還までの間の危険性の除去及び基地負担の軽減を早急に実現するよう強く要請いたします。